

来年度学校経営計画構想の重点プラン PART 1

児童の人権、発達特性、心のひだに寄り添い、我が子同然に関わる教職員集団を形成するために

職員室での児童についての会話は 敬称（くん、さん）による建設的な会話

このことを斉一的に（例外なく）取り組みます

理由と根拠は以下の3点です

どんな理由があっても、いついかなる場面でも「呼び捨ては行わない」方法で児童に関わることは「究極の人権感覚」を研ぎ澄ますことに結び付くから

肯定的な会話のみから建設的な改善策が生まれるから

否定的な会話は、「自身の指導力不足がないことを公言している」ことと同等であるから

保護者や児童が聞いている（モニタリング）想定や意識を常にもち、自分の言葉を発してください。時や場所で言葉を変えるほど人間は優れていません。必ずマイナスの発言をされた教師の心根は児童や保護者の心に届きます。（個人情報のレベルによって例外はありますが、児童について小声で話す必要は全くありません）

このプランは、発達特性に寄り添い、彼らを「学校・学年・学級で光り輝く存在」にしていくための特別支援教育における「唯一無二」の方法となると確信しています。加えて、我々の究極の「メタ認知」を高める方法ともなります。

児童を「過度に受容（甘やかす）」することでは決してありません。「叱るべき時に毅然と叱る」が指導の「イロハのイ」であることが大原則です。